

社会参加の促進及び生きがいつくりの推進について

基本方針3 お互いが支えあい、生きいきと生活を送るために

(2) 社会参加の促進

これまでに培った豊かな経験・知識・技能を持っている高齢者の方々が、能力を積極的に活かしながら社会に参加し、社会の中で役割を持つことは地域の活力となるとともに、高齢者本人の元気の維持につながるなど、相乗効果をもたらします。定年後の高齢者も社会的役割を持って、生きいきとした生活を継続できるよう、社会参加による地域への活力の還元の仕組みづくりを進めます。

① 介護支援ボランティアポイント事業の推進

ボランティア活動の奨励と新たにボランティア活動を始める人材を発掘するため、地域でボランティア活動に取り組む高齢者の活動実績をポイントとして評価をする、介護支援ボランティアポイント事業を推進します。この事業は、健康づくりや趣味活動、学習活動以外の活動を求める高齢者向けの参加場所として、新たな形の介護予防活動となること、さらに、活動中での高齢者同士の関わり合いを通して、高齢者が高齢者を支える、支えあいの地域づくりを目指します。

【図表 介護支援ボランティアポイント事業】

区分	第8期計画実績値/目標値			第9期計画目標値		
	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度
登録人数	131人 /280人	318人 /300人	320人	350人	380人	410人

② パワーアップ・リーダーの養成

ふじみパワーアップ体操を地域で普及するために、健康長寿のためのパワーアップ・リーダー養成講座を開催し、リーダーを養成します。リーダーが中心となり、地域に体操クラブを開設していきます。

【図表 健康長寿のためのパワーアップ・リーダー養成講座】

区分	第8期計画実績値/目標値			第9期計画目標値		
	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度
回数	0回/16回	8回/16回	16回	16回	16回	16回
延べ人数	0人 /144人	140人 /144人	144人	160人	160人	160人

③ 高齢者の就業への支援

就業意欲のある高齢者のニーズに対応するため、就業に関する情報の提供を行うとともに、就業の相談に対しては、入間東部シルバー人材センターや富士見ふるさとハローワーク等の関係機関と連携していきます。

60歳以上の方が会員となり高齢者に働く機会を提供するシルバー人材センターでの就労が、社会参加の契機となり、介護予防につながる面もあることから、今後も運営を支援していきます。併せて、センターの事業開拓や業務拡大、会員増加が進めやすくなるよう、市民及び市内事業所に向けたセンターの周知に努めます。

また、**就労的活動支援コーディネーター（就労的活動支援員）**を配置し、就労的活動の場を提供できる事業者と就労的活動の取組みを実施したい**介護事業者等**とをマッチングし、**介護サービス提供時間中での有償での取組みを含めたボランティア活動や就労的活動に要支援・要介護認定者を含む高齢者が従事することで、役割がある形で高齢者の社会参加及び生きがいづくりを促進させる仕組みについて**就労的活動支援コーディネーターの配置ができることとなったため、検討していきます。

④ 市民人材バンク制度の活用

幅広い分野における人材（市民）を発掘し、その情報を地域社会へ還元することにより、豊かな社会を創造していくため、住民一人ひとりの多様な相互学習活動を支援し、市民人材バンク制度の活性化や有効活用を行うなど、一人でも多くの高齢者の生きがいの場づくりを進めていきます。

また、**新しい人材の確保や制度の利用促進のために生涯学習担当課と連携して制度の周知を図ります。**

【図表 市民人材バンク】

区分	第8期計画実績値/目標値			第9期計画目標値		
	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度
登録件数	249件 /276件	262件 /282件	/288件	230件	240件	250件
利用件数	64件 /530件	122件 /535件	/540件	400件	410件	420件
延べ利用人数	3,456人 /25,000人	5,996人 /25,100人	/25,200人	8,000人	8,200人	8,400人

⑤ アクティブシニアの活躍推進

アクティブシニアとは、団塊の世代を中心とする60～70歳代のうち、自分なりのこだわりや価値観を持ち、仕事や趣味に意欲的で元気なシニア世代のことです。こうした方々が、これまでの豊富な実務経験や専門的知識、築いてきた人的ネットワーク等を活かし、地域づくりを支える活動の担い手として活動に取り組める環境づくりを目指します。

取組みの一例

- ・ 定年退職後の地域デビュー支援
- ・ 町会、自治会、民生委員活動の周知
- ・ 地域自主活動グループの育成
- ・ 世代間交流できる居場所づくり支援
- ・ 社会資源の紹介、周知

⑥ その他の社会参加

● ふじみ在宅福祉サービスセンター（社会福祉協議会）

ふじみ在宅福祉サービスセンターでは、高齢者や身体の不自由な方などに対し有償で活動いただくボランティアの協力を得ながら、掃除や買い物などのちょっとした困りごとを手伝う、会員相互の家事援助活動を行っています。このサービスは、地域における支えあいの仕組みであり、活動に協力いただける「協力会員」が担い手となり、「利用会員」へサービスの提供を行っています。

市は、社会福祉協議会と連携しサービスの周知を図っていきます。

● ボランティア活動の活性化支援（社会福祉協議会）

富士見市ボランティアセンターでは、地域福祉に対する意識の醸成、市民参加の促進など、ボランティア活動を推進し、センターの周知に努めています。

(3) 生きがいつくりの推進

高齢者が、今後も元気を維持していくためには、生きがいを持つことが重要です。生きいきと充実した生活につながるよう、様々な学習・趣味活動などができる環境づくりを支援します。

① 学習機会の充実

主体的な学習機会や生きがいつくり活動の確保を行うため、学習・交流の場としてニーズを踏まえた内容の充実を図り、公民館等における高齢者学級、市民大学等を展開し、高齢者が参加しやすい運営に努めます。

高齢者学級の主な活動内容

● 「鶴瀬学級」 (鶴瀬公民館)

教養講座(年6回)と趣味クラブ活動(月2回程度)を通じて、時代に適応できる知識を高めるとともに、親睦を図っている**ます**。

● 「なんばた学級」 (南畑公民館)

生きがいつくりの機会を提供するため、全体学級(月1回)とクラブ活動、学級だよりの発行を行っている**ます**。

● 「水谷学級」 (水谷公民館)

学習意欲の向上や仲間づくりの一助として、全体会(年10回)と各種サークル活動(月1~2回)を実施している**ます**。

● 「熟年学級」 (水谷東公民館)

身近な話題等をテーマにした全体会(学習会)とクラブ活動(月1回程度)を実施している**ます**。

● 「水曜学級」 (鶴瀬西交流センター)

生活・健康等をテーマに学ぶ全体会(年10回)やサークル活動、学級だよりの発行、文集の作成を行っている**ます**。

● 「ふじみ野じゅく」 (ふじみ野交流センター)

地域の方々の学びあいと交流を目的に、様々な事業を月1回程度開催。幅広い年齢層の方が参加している**ます**。

【図表 高齢者学級の受講者数】

(単位：人)

区 分	第8期計画実績値/目標値			事業及び取組の課題、今後の方向性
	令和3年度	令和4年度	令和5年度	
鶴瀬公民館	164	147	133	
男	40	43	35	
女	124	104	98	
南畑公民館	95	80	61	男女の参加割合は過去5年間で男性3割、女性7割でほぼ推移している。全体の参加者数が減少傾向にあるが、高齢者の生きがいづくりの場として今後も活動内容の充実に努める。
男	29	22	16	
女	66	58	45	
水谷公民館	0	69	80	参加者の減少及び固定化への対策が必要となっている。また、講師の高齢化や人手不足についても対策を検討していく。今年度は、3年ぶりに全体会を開催するため、参加者同士の交流を改めて深める機会を提供すると共に、参加者のニーズに合わせた内容の実施に取り組む。
男	0	11	14	
女	0	58	66	
水谷東公民館	67	60	69	課題としての男性受講生の少なさ→男女問わず高齢者の関心を寄せることができるような全体企画やクラブ活動の見直し。
男	6	6	7	
女	61	54	62	
鶴瀬西交流センター	88	97	98	
男	26	25	26	
女	62	72	72	
ふじみ野交流センター	100	218	105	男性参加率が年間を通して低いので、周知の充実を図るとともに、アンケート等で要望を聞き、取り組みに活かしていく。
男	18	36	16	
女	82	182	89	

※令和5年度の数値は9月14日時点

② デジタルデバインド[※]対策

富士見市では、令和4年3月に富士見市デジタル・トランスフォーメーション(DX)推進計画を策定し、デジタル技術を活用することで市民サービスの向上や地域社会のデジタル化等を目指すこととしました。地域社会のデジタル化については、年齢や障害の有無等にかかわらず、すべての人がデジタル社会の恩恵を実感できるものとする必要があります。市では、国や事業者と連携し、デジタル活用支援講習会や初めてのスマホ体験教室等を開催しています。

今後も、関係機関と連携しながら、本市のDX推進に関する取組みとの整合性を図りながら、デジタルデバインド対策に向け取り組んでいきます。

※デジタルデバインド…インターネットやスマートフォン、パソコン等の情報通信技術の恩恵を受けることのできる人とできない人の間に生じる格差を指します。手にすることのできる情報量や情報の質に格差(情報格差)が生じると、社会参加機会の喪失や孤立につながる可能性が指摘されています。

③ 老人福祉センターの利用促進

高齢者の健康増進、教養の向上、娯楽などの活動の場である老人福祉センターの利用促進を図ります。また、高齢者が自主的な学習活動を進めていけるよう、コミュニティ大学や老人クラブの主体的な活動を支援します。

さらに、利用者の介護予防への取組みを進めるとともに、利用者の状況にも注視しながら、支援の必要な高齢者については、市や地域包括支援センター等の関係機関との連携を図ります。

なお、老人福祉センターは昭和48年3月の竣工以来、令和8年度には築55年を迎え、施設の老朽化が課題となっています。公共施設等総合管理方針等に基づき、他の施設との複合化や移転等を含め、施設の在り方について関係機関と連携し、検討を行います。

【図表 老人福祉センター】

区分	第8期計画実績値/目標値			第9期計画目標値		
	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度
利用人数	10,398人 /12,000人	18,619人 /20,000人	28,000人	22,000人	26,000人	30,000人
開館日数	298日	294日	296日	291日	290日	292日

③ 老人クラブ活動・サークル活動の支援

老人クラブは老後の生活を豊かなものにするため、社会奉仕活動、教養講座、スポーツ・健康増進事業、地域社会との交流などに活動をしています。老人クラブが活発に活動していけるよう、事業内容についての意見交換や先進的に活動している地域の取組みを学ぶなど、自主活動の活性化に向けて支援します。

また、高齢者の健康づくりや生きがいづくりなど多様なニーズに対応できるよう、様々な高齢者のサークル活動や自主活動を支援します。

【図表 老人クラブの活動状況】

区分	第8期計画実績値/目標値			第9期計画目標値		
	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度
クラブ数	21クラブ /21クラブ	21クラブ /21クラブ	20クラブ /21クラブ	21クラブ	21クラブ	21クラブ
利用人数	1,102人 /1,170人	1,021人 /1,190人	/1,200人	960人	970人	980人
（うち男性）	461人 /480人	407人 /490人	/500人	380人	385人	390人
（うち女性）	641人 /690人	614人 /700人	/700人	580人	585人	590人

④ 高齢者サロンの側面的支援

地区社会福祉協議会、町会、自主運営で行われている高齢者サロンに対し、協力者と参加者が共に介護予防や閉じこもりを防ぐ居場所として今後も継続できるよう、社会福祉協議会や健康増進センター等の関係機関でアドバイスや情報交換などを行いながら、運営に関わる側面的支援に努めます。また、様々なニーズに応じた居場所づくりとしてお互いに参加・協力できる高齢者サロンになるよう、生きがいづくりを支援していきます。